

学習指導案の形式（例） 高等学校芸術（美術・工芸）

芸術（美術・工芸）科学習指導案	
〇〇高等学校 〇〇科 年 組	
平成 年 月 日（ ） 第 校時 教室 指導者	
題 材 (単元)	※内容との関連をもたせ、その題材で何をどうするのが分かるように実現するねらいを考慮し、工夫する。
目 標	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> </div> <div style="width: 75%;"> (美術への関心・意欲・態度) (発想や構想の能力) (創造的な技能) (鑑賞の能力) </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 育成すべき「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を、明確な具体目標としてとらえる。生徒の発達段階を踏まえ、学習経験とつながりをもたせて書く。適切な評価ができるように、精選して完結に書く。 <学習指導要領の目標・指導内容及び生徒の実態に基づいたものであること> </div>
	※文末表現例「～しようとする」「～できる」など [生徒の立場で書く]
指導上 の立場	<input type="radio"/> 生徒の実態 <生徒の関心・意欲・態度，育成を目指す能力についての現在までの実態，日常の取り組み，生徒や学級の実態など>
	<input type="radio"/> 題材（単元）観 <題材の内容，題材を取り上げる意義，既習題材との関連，今後の展開など> <input type="radio"/> 本題材（単元）で工夫する点や手だて <指導・支援の力点，工夫，形態，仮説，評価の工夫，その他の配慮事項など>
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が学習内容及び生徒をどのように理解して授業を計画しているかが分かるように記述する。 ・目標，生徒の実態，題材観，工夫・手だての関連が分かるように述べる。 ・これまでの指導と評価を踏まえる。 ・研究主題が設けられている場合には，研究主題との関連について項目を立てて述べる。 <div style="text-align: right;">[指導者の立場で書く]</div>	
指導と 評価の 計 画 全〇時間	主な学習活動
	第一次 . . . 〇時間 <input type="radio"/> 生徒の活動を具体的に記す。
	第二次 . . . 〇時間 ※本時が含まれている学習のまとめ（次）については、 第1時 〇〇〇〇 第2時 〇〇〇〇 . . . (本時) 第3時 〇〇〇〇 のように時案を示して，単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。
	第三次 . . . 〇時間 <input type="radio"/> ※文末表現例「～について話し合う」など <div style="text-align: right;">[生徒の立場で書く]</div>
具体的な評価規準（◇）と評価方法	
◇評価規準（観点）〈評価方法〉 ※目標に示している観点と整合性をもたせて，それぞれの学習のまとめにおける中心的な評価場面について，おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて，評価する場面を想定し，必要な評価機会に位置付ける。	
◇ ※文末表現例「～している」など <div style="text-align: right;">[生徒の立場で書く]</div>	

本 時 案 （第〇次の第〇時）		
目 標	○ (〇〇能力) ・題材（単元）の目標の「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」のうち、本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。 ・ねらいを明確にした授業づくりのために1～2つの目標に絞り込む。 ※文末表現例「～しようとする」「～できる」など [生徒の立場で書く]	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準・方法など
[生徒の立場で書く]	[指導者の立場で書く]	[生徒の立場で書く]
1	学習活動のねらい（生徒に提示する本時の目標）を、実線で囲んで書く。	
2 (1) (2)	○ ○ ○ ・ 学習過程に沿って、生徒の活動を具体的に書く。 ※文末表現例 ～を音読する。 ～を書く。 ～をまとめる。 ～について考える。 ～について話し合う。 ～に慣れる。 など	○ (〇〇能力) <観察> 評価の観点、規準、方法などを具体的に書く。 ※評価方法例 ワークシート アイデアスケッチ 作品 相互評価表 など
3	○ ※「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への具体的な手だても記す。	
4	○	

※学習指導案作成上の留意事項

- 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手だてを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- どのような書式を選択しても、次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
 - 生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか、また、生徒がその目標を達成できるように、指導者がどのような手だてを講じているか。
 - 指導の中で評価がどのように位置付けられ、どのように活用されているか。
- 評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料－高等学校－』（平成24年7月国立教育政策研究所）を参考にして、生徒の発達の段階を踏まえ、単元の指導のねらいを明確にするとともに、当該単元に位置付ける言語活動と取り上げる指導事項に応じて、適切に設定することが望ましい。なお、「十分満足できる」状況（A）と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や、ABCの評価の尺度を示すこともある。